

進学するのは勉強するため

—何のために進学するのかを考えよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

お読みになりやすいように、Q and A の形で書かせていただきます。どうかゆっくりとお読み下さい。

Q：中学生が受験勉強をして高校に進学するのは、高校で勉強をするためです。また、高校生が受験勉強をして大学に進学するのは、大学で勉強をするためです。このような当たり前のことを、なぜ受験勉強をしている人たちにわざわざ訴えるのですか。

A：(林明夫：以下省略)

熱心に受験勉強をすればするほど自分が今受験勉強をしている意味がわからなくなり、入試に合格したら好きなだけ遊べばよいと自分に言い聞かせる人が多いからです。

また、保護者の皆様の中には、自分の子どもが今までになく熱心に受験勉強に励む姿を見て可哀想になり、合格して入学したらもう勉強などしなくてもよい、思い切り羽を伸ばして遊んだほうがよいなどとお子様に伝える方が少なからずいらっしゃるからです。

Q：進学したあとは勉強をしなくてもよいと、受験勉強をしているときに考えたり、保護者から言われたりするとどうなりますか。

A：全員とは言いませんが、そのうちの多くの方々はせっかく進学した学校であまり熱心に勉強しなくなります。その結果、進学先の学校での成績はあまりよくなく、卒業したあとの進路に大きなマイナスの影響を与えることが多いように私には思えてなりません。

Q：受験勉強をしているときに、やらないほうがよいことは何ですか。

A：今やっている受験勉強が辛いのはわかりますが、入試に合格して進学したら遊べるだけ遊ぼうと考えるのはやめたほうがよいと思います。また、保護者の皆様には、今は辛い受験勉強をしているのだから、合格を果たしたあとは好きなだけ遊べばよいとお子様に伝えることは避けていただきたいと希望します。その代わりに、リラックスの仕方を考えて、教えていただければ有難いと思います。

Q：やったほうがよいことは何ですか。

A：①何のために進学するのか、②進学して何をするのか、③進学した学校を卒業したあとはどうす

るのか、④社会に出てから何のために働くのか、⑤一生涯にわたり、どのような社会的な活動をしたいのか、⑥どのような人生を歩んだらよいのか等々を、自分のこととして真剣に考えること、このような自覚を持って勉強することをお勧めします。自覚を持った上で、受験勉強を本格的に行うことを勧めします。

Q：中学生、特に県立高校受験を目前にした中学校3年生に言いたいことは何ですか。

A：高校に入学してからも、今しているような真剣な態度で3年間勉強し続けてもらいたいということです。

高校入試直前までは文字通り「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心なものごとに取り組むこと)」に受験勉強に励んで合格を果たしたのに、入学後はさっぱり勉強せず、その結果高校でよい成績が取れず、大学も希望するところに進学を果たせない人が高校生の中には数多く存在するからです。

私は、せめて開倫塾の塾生の皆様には受験勉強中は自覚を持って勉強し、高校に入学してからも、自分の未来を自分の手で切り開くために高校入試の受験勉強中のような真剣さで「一所懸命」に勉強に励んでももらいたいと希望します。

そのために、当塾の先生方は毎時間「武者語り」をして、皆様の「自覚」を促しているのです。また、学習の仕方がわからずに困り果てることのないように、「理解→定着→応用」の「学習の3段階理論」や「学習時間の確保の仕方」を口をすっぱくして皆様にお伝えしているのです。

開倫塾のこれらの取り組みはすべて、皆様が開倫塾を離れたあとにもお役に立てるようにとの願いから行われています。

Q：最後に一言どうぞ。

A：受験勉強として今やっている学習内容の中で、皆様のお役に立たないものは一つもありません。

各学校の各学年で学習する一つ一つの学問分野の「体系的な知識」を確実に「理解」し「定着」させて自分のものとして活用、つまり「応用」できてはじめて、それまでの教育は皆様の人生の選択肢を大幅に増加させます。

今やっている勉強はすべてこれからの人生で役に立つ、そのような確信を持って机に向かっていただきたいと希望します。

開倫塾では、高校部を開設。希望する大学の入試までしっかりとしたカリキュラム・指導体制の下で中学部同様の熱心さで指導をしています。

中学校3年生は全員、高校部に継続して勉強に励んで下さい。学習内容はもちろん、高校生としての勉強の仕方もしっかりと指導いたします。また、自習室も完備しています。

— 2013年2月12日記 —